



2024年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年1月12日
東

上場会社名 株式会社エルテス 上場取引所
 コード番号 3967 URL <https://eltes.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菅原 貴弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役組織マネジメント (氏名) 佐藤 哲朗 (TEL) 03-6550-9280
 四半期報告書提出予定日 2024年1月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第3四半期の連結業績(2023年3月1日~2023年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA(※)		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	4,751	47.1	376	66.4	102	7.8	68	91.8	9	—
2023年2月期第3四半期	3,230	70.0	226	34.2	94	—	35	—	△1	—

(注) 包括利益 2024年2月期第3四半期 △14百万円(—%) 2023年2月期第3四半期 △1百万円(—%)

※ EBITDAは、税引前四半期純損益+支払利息+減価償却費及び償却費として、算出しております。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年2月期第3四半期	円 銭 1.63	円 銭 1.62
2023年2月期第3四半期	△0.20	—

※ 2023年2月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年2月期第3四半期	百万円 6,672	百万円 2,352	% 34.4
2023年2月期	6,000	2,335	38.1

(参考) 自己資本 2024年2月期第3四半期 2,296百万円 2023年2月期 2,288百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年2月期	—	0.00	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日~2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	28.1	600	34.3	300	48.1	250	73.9	150	251.8	24.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) EBITDAの業績予想を追加しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 ー社(社名)ー 、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P8.「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P8.「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年2月期3Q	6,070,880株	2023年2月期	6,050,880株
2024年2月期3Q	37,623株	2023年2月期	25,143株
2024年2月期3Q	6,032,489株	2023年2月期3Q	5,802,996株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 詳細は、添付資料P8.「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)」をご覧ください。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算説明資料の入手方法について)

四半期決算説明資料は、TDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症における活動制限の緩和により経済活動が正常化、サービス需要や設備投資の拡大傾向など、緩やかな回復が続くことが期待されました。一方、世界的な金融引き締めに伴う景気の減速、長期化する物価上昇による消費の落ち込みや人手不足の深刻化など、依然として先行き不透明な状況も継続しております。

このような環境のもと、企業や自治体における業務効率の向上を期待したデジタル化やDX関連投資が引き続き増幅しております。情報セキュリティ業界では管理体制における課題、またSNS普及による炎上事象などインシデントが多数発生、社会経済活動に与える影響は拡大かつ深刻化しており、対策を提供する当社グループへのニーズは、これまで以上に高まっております。これらの社会的な追い風を受けて、3事業ともに当第3四半期連結会計期間の黒字化を達成しました。一方で、投資有価証券評価損29,999千円を特別損失として計上いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,751,318千円（前年同四半期比47.1%増）となり、EBITDAは376,475千円（前年同四半期比66.4%増）、営業利益は102,303千円（前年同四半期比7.8%増）、経常利益は68,477千円（前年同四半期比91.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,811千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,167千円）になりました。

(注) 当社グループの業績の有用な比較情報として、EBITDAを開示しております。EBITDAは、税引前当期純損益から非現金支出項目（減価償却費及び償却費）等の影響を除外しております。EBITDAの計算式は以下のとおりです。

$$\bullet \text{ EBITDA} = \text{税引前当期純損益} + \text{支払利息} + \text{減価償却費及び償却費}$$

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① デジタルリスク事業

デジタルリスク事業は、主にSNSやブログ、インターネット掲示板などWeb上のソーシャルメディアに起因するリスク対策を支援するソーシャルリスク対策と営業秘密情報の持ち出しなどの社内に潜むリスクを検知するインターナルリスク対策から構成されております。

ソーシャルリスク対策は、リスク検知時の初動対応コンサルティングを含むWebリスクモニタリングを主力サービスとして提供しています。また、SNSリスク低減のための社内規程作成支援や従業員向け研修の提供など、幅広い形で企業のSNSリスク対策サービスを支援致しました。

インターナルリスク対策は、昨今話題となっている営業秘密等の機密情報持ち出し対策や、経済安全保障の観点による情報管理強化支援を目的に製造業・金融業を中心に新規導入が進み、KPIとしていたユーザーID数が2024年2月期の目標の20万を大きく上回り、25万IDに達しました。上期に進めていた提供体制の強化が業績貢献に繋がっております。また、さらなるリード獲得を目指し、展示会・イベントへの出展を増加させ、順調にリード獲得を進めています。

以上の結果、売上高は1,929,937千円（前年同四半期比13.2%増）、セグメント利益は825,200千円（前年同四半期比32.1%増）となりました。

② AIセキュリティ事業

AIセキュリティ事業は、フィジカルな警備事業を運営しつつ、運営の中で生じる課題解決のためにAIやIoTを組み合わせた警備業界のDXを推進しております。

株式会社AIKの主要サービスである「AIK order」については、登録者数拡大が続いており、案件成約数CMGRが24.5%で成長しています。さらに、警備サービスを提供する株式会社And Security、ISA株式会社、SSS株式会社と共同開発した、警備管制業務をデジタル化する「AIK assign」のサービス提供を開始いたしました。

また、警備サービスにおいては、イベント再開や警備業界の人手不足による需要増加を取り込み、前期から強化してきた警備員の採用活動も奏功し、順調に業績を拡大しております。

以上の結果、売上高は1,094,787千円（前年同四半期比11.1%増）、セグメント損失は566千円（前年同四半期は21,034千円のセグメント損失）となりました。

③DX推進事業

DX推進事業は、行政の住民サービスのデジタル化支援、エンジニアなどのDX人材の派遣サービス、プロパティマネジメントサービスを展開しています。

行政の住民サービスのデジタル化支援では、デジタル田園都市国家構想の追い風を受けながら、各自治体への住民総合ポータルアプリの横展開が進んでいます。そこで、複数プロジェクトを推進できる社内体制構築、DX人材の派遣サービス強化に向けた採用活動を強化しております。

エンジニアなどのDX人材の派遣サービスにおいては、株式会社JAPANDX、株式会社GloLing、プレイネクストラボ株式会社の3社の業務連携強化を目的に、オフィス統合や人材交流などの取り組みを推進しております。

以上の結果、売上高は1,799,781千円（前年同四半期比211.6%増）、セグメント利益は46,800千円（前年同四半期は100,803千円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は6,672,600千円となり、前連結会計年度末に比べ、672,198千円増加いたしました。主な要因は、受取手形、売掛金及び契約資産の増加303,982千円、ソフトウェアの増加115,864千円、のれんの増加117,487千円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は4,320,183千円となり、前連結会計年度末に比べ、654,796千円増加いたしました。主な要因は、短期借入金の増加378,600千円、1年内返済予定の長期借入金の増加153,389千円、長期借入金の増加111,915千円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,352,417千円となり、前連結会計年度末に比べ17,401千円増加いたしました。主な要因は、資本金の増加6,000千円、資本剰余金の増加15,900千円、その他有価証券評価差額金の減少23,838千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年4月14日の「2023年2月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,656,787	1,718,735
受取手形、売掛金及び契約資産	633,373	937,356
その他	230,728	234,508
貸倒引当金	△11,851	△23,650
流動資産合計	2,509,037	2,866,950
固定資産		
有形固定資産	39,842	41,396
無形固定資産		
ソフトウェア	52,224	168,088
のれん	2,576,753	2,694,241
その他	68,957	72,055
無形固定資産合計	2,697,935	2,934,385
投資その他の資産		
投資有価証券	510,929	557,917
関連会社株式	17,374	20,251
敷金	70,464	75,045
繰延税金資産	124,388	138,059
その他	30,428	38,594
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	753,586	829,868
固定資産合計	3,491,364	3,805,649
資産合計	6,000,402	6,672,600

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	70,535	134,654
短期借入金	100,000	478,600
1年内返済予定の長期借入金	455,306	608,695
未払金	266,171	171,829
未払法人税等	48,372	47,670
賞与引当金	31,556	35,561
株主優待引当金	11,463	—
受注損失引当金	—	739
その他	355,971	418,038
流動負債合計	1,339,377	1,895,789
固定負債		
長期借入金	2,157,333	2,269,248
その他	168,676	155,145
固定負債合計	2,326,009	2,424,393
負債合計	3,665,386	4,320,183
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,581	1,223,581
資本剰余金	1,268,960	1,284,860
利益剰余金	△206,609	△196,813
自己株式	△367	△367
株主資本合計	2,279,565	2,311,261
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,649	△15,188
その他の包括利益累計額合計	8,649	△15,188
新株予約権	46,800	56,344
純資産合計	2,335,015	2,352,417
負債純資産合計	6,000,402	6,672,600

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)
売上高	3,230,017	4,751,318
売上原価	1,868,595	2,968,241
売上総利益	1,361,422	1,783,076
販売費及び一般管理費	1,266,534	1,680,773
営業利益	94,887	102,303
営業外収益		
受取利息	126	127
受取配当金	51	66
持分法による投資利益	-	2,577
投資事業組合運用益	5,386	-
その他	2,424	5,256
営業外収益合計	7,988	8,027
営業外費用		
支払利息	8,995	17,878
支払手数料	43,612	10,350
投資事業組合運用損	-	592
新株予約権発行費	-	5,238
その他	14,568	7,793
営業外費用合計	67,177	41,854
経常利益	35,698	68,477
特別損失		
株式報酬費用消滅損	14,167	2,083
投資有価証券評価損	9,703	29,999
その他	-	0
特別損失合計	23,871	32,083
税金等調整前四半期純利益	11,827	36,393
法人税等合計	13,365	26,582
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,537	9,811
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△370	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,167	9,811

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,537	9,811
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	409	△23,838
その他の包括利益合計	409	△23,838
四半期包括利益	△1,128	△14,027
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△916	△14,027
非支配株主に係る四半期包括利益	△212	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2022年5月17日付で、株式会社ラック及びDOSO株式会社から第三者割当増資の払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ402,600千円増加しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,217,581千円、資本剰余金が1,268,960千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第3四半期連結累計期間において、当社が新株予約権の行使を受けたことおよび当社の連結子会社である株式会社AIKが第三者割当増資の払込みを受けたことにより、資本金が6,000千円、資本剰余金が15,900千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が1,223,581千円、資本剰余金が1,284,860千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用について、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	デジタル リスク事業	A Iセキュリティ 事業	D X 推進事業			
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	1,697,752	983,728	277,586	2,959,067	—	2,959,067
その他の収益	—	—	270,950	270,950	—	270,950
外部顧客への売上高	1,697,752	983,728	548,536	3,230,017	—	3,230,017
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,922	1,720	29,053	37,697	△37,697	—
計	1,704,675	985,448	577,590	3,267,714	△37,697	3,230,017
セグメント利益又は損 失(△)	624,524	△21,034	△100,803	502,686	△407,798	94,887

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△407,798千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△407,798千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

A Iセキュリティ事業において、第1四半期連結会計期間にI S A株式会社、S S S株式会社を取得し連結子会社としております。当該事象によるのれんの増加額はそれぞれ、499,273千円、17,076千円であります。

D X推進事業において、第1四半期連結会計期間に株式会社G l o l i n gを取得し連結子会社としております。また、当第3四半期連結会計期間に株式会社メタウンを取得し連結子会社としております。当該事象によるのれんの増加額はそれぞれ176,885千円、1,453,744千円であります。

デジタルリスク事業において、第1四半期連結会計期間にアクター株式会社を取得し連結子会社としております。当該事象によるのれんの増加額は310,913千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	デジタル リスク事業	A Iセキュ リティ事業	D X 推進事業			
売上高						
顧客との契約から生じ る収益	1,914,647	1,093,960	932,155	3,940,763	—	3,940,763
その他の収益	—	—	810,554	810,554	—	810,554
外部顧客への売上高	1,914,647	1,093,960	1,742,710	4,751,318	—	4,751,318
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,289	827	57,071	73,188	△73,188	—
計	1,929,937	1,094,787	1,799,781	4,824,506	△73,188	4,751,318
セグメント利益又は 損失(△)	825,200	△566	46,800	871,434	△769,131	102,303

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△769,131千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△769,131千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

D X推進事業において、第2四半期連結会計期間にプレイネクストラボ株式会社を取得し連結子会社としております。当該事象によるのれんの増加額は376,258千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「(注記事項) (セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。